

2 夫婦間での行為についての暴力としての認識

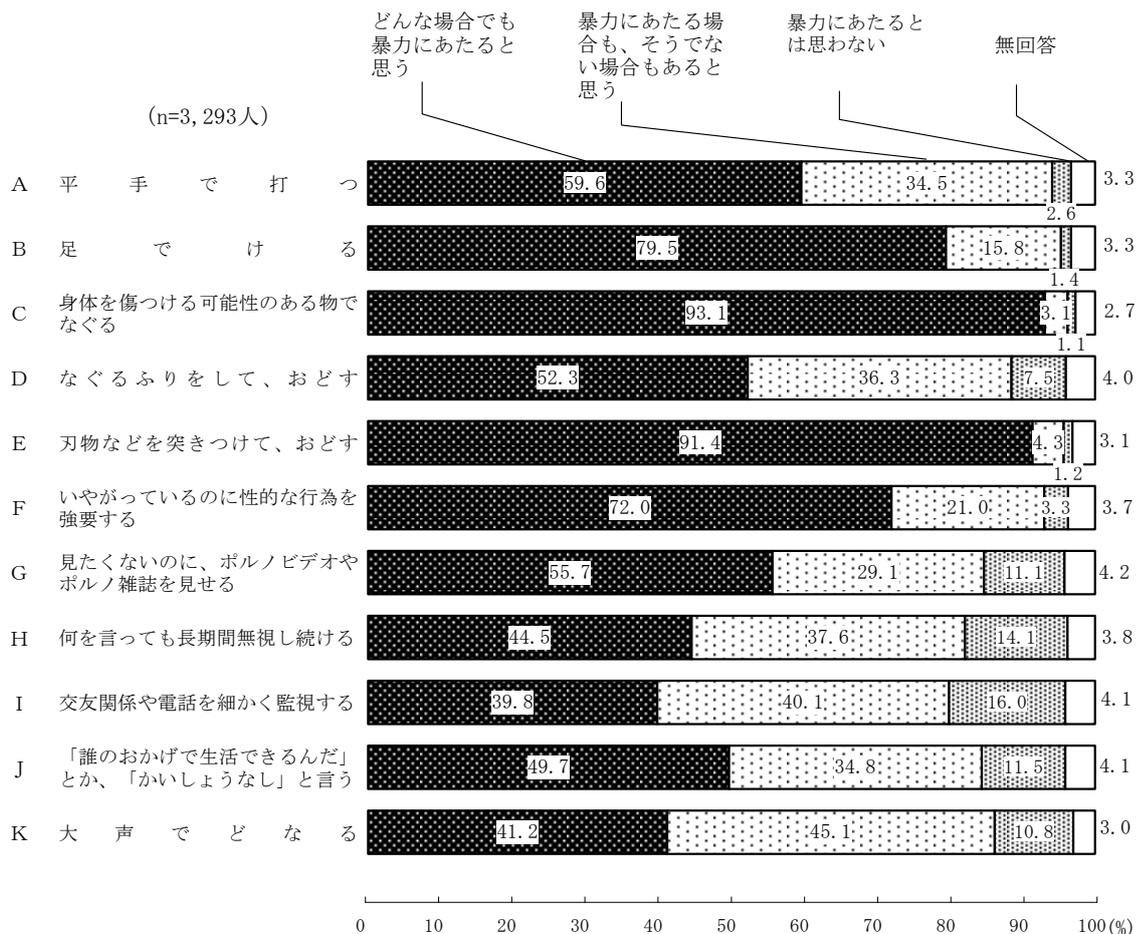
11項目の行為をあげて、それが夫婦間で行われた場合に「暴力」にあたると思うかの意識を聞いた。この調査における「夫婦」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦も含まれている。

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が多いのは、“身体を傷つける可能性のある物でなぐる”と“刃物などを突きつけて、おどす”で、9割以上が『暴力にあたる』と認識している。

一方、「暴力にあたるとは思わない」が、他の項目より比較的多かったのは、“交友関係や電話を細かく監視する”、“何を言っても長期間無視し続ける”、“「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしょうなし」と言う”、“見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる”、“大声でどなる”であり、いずれも『暴力にあたらぬ』と認識している人が1割を超えている。(図2-1)

問3 あなたは、次のようなことが夫婦の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。A～Kのそれぞれについて、1から3のうちあなたの考えに近い番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

図2-1 夫婦間での行為についての暴力としての認識



男女別にみると、『暴力にあたる』と認識する行為と、『暴力にあたらない』と認識する行為に、大きな差はない。(図 2-2)

図2-2 夫婦間での行為についての暴力としての認識(男女別)

